



11月号

いいことたくさん 川本中!!

平成 29 年 10 月 30 日

気温もだんだんと低くなり、秋も深まる季節となりました。

さて、埼玉県では収穫の秋、11月を「彩の国ふるさと学校給食月間」とし、地元食材や郷土料理を通じて、ふるさとへの愛着を深めようという取り組みを行っています。私たちのふるさとについて考えてみましょう。



深谷の偉人 渋沢栄一 について知ろう！



近代日本経済の父といわれ、明治時代に活躍した実業家、渋沢栄一は天保11年(1840)深谷市の血洗島の農家の家に生まれました。『最後の将軍・徳川慶喜公』に仕え、明治維新後、五百社以上もの企業の設立や社会福祉事業、国際親善など数多くの慈善事業に深く関わった立派な方です。

“にぼうと”を好んだ...?!

渋沢翁は生前、地元に戻ってきた時、「ぜひ、にぼうとが食べたい」と言って、地元の人と“にぼうと”と一緒に食べたそうです。地元に戻るたびに食べたがったといわれていますが、地元の人にあまり気を遣わせたくない渋沢翁が「自分が来た時は、にぼうとや芋・なす等の野菜の煮物が何と言っても一番の故郷のご馳走だ」といって、地元の人達への気配りをしたのではないかと、ともいわれています。

11月11日は渋沢翁の命日です。地元では、“にぼうと会”を毎年この日に開催し、渋沢翁の遺徳をしのぶため、にぼうとを食べています。



11月7日の給食は“にぼうと”

そんな渋沢栄一も好んで食べたという“にぼうと”は深谷の郷土料理です。

特徴は、幅広の麺と特産である深谷ねぎ、地元で収穫される野菜類をたっぷり使い、生めんの状態から煮込んでいるところです。川本中学校でも、11月7日(火)の給食で、“にぼうと”を提供します。

皆さんもただ食べるのではなく、渋沢翁の真心と思いやりの精神を思い浮かべながら、味わってください。

地産地消って!?

* 地域で生産されたものを地域で消費すること

新鮮

輸送する時間が短いので
新鮮な食材が手に入る。

安心安全

身近でつくられているので
生産者がわかり、安心。

自給率アップ

地産地消は、食料自給率
の向上につながる。

環境に優しい

輸送にかかるエネルギーが
少なく、地球環境に優しい。

地産地消にはたくさんのよいことがあります。
実りの秋に、地域の生産者が心を込めて
つくった食材を味わっていただきましょう。

